

犬山市水道事業 経営戦略（令和2～11年度）＜概要版＞

水道事業の現状

- ◆犬山市の水道料金体系は用途別料金（家事用・業務用・湯屋営業用）を採用し、それぞれ基本料金と超過料金を設定しています。料金体系の基本的な考え方としては、市民の生活に必要な不可欠な家事用水道料金を他用途より安価に設定し、市民の健康的な生活を支えることを前提としており、そのため県下で最も安い料金水準となっています。
- ◆経営の健全化及び効率性に関する指標*によれば、借入金もなく、保有施設の利用率や水道管の更新率も平均を上回るなど、本市水道事業の経営は健全な状況を維持しています。
- ◆一方、保有する施設に対する利用率の高さから、老朽化が進んだ場合の影響は大きく、今後も、積極的な水準の更新を行うことが重要と考えられます。
- ◆今後の経営環境は厳しさを増すと予測され、業務の一部民間委託など適切な経費の削減と将来の収益見通しに基づき経営戦略を策定し、生活に不可欠な水道の安定的な経営に努めます。

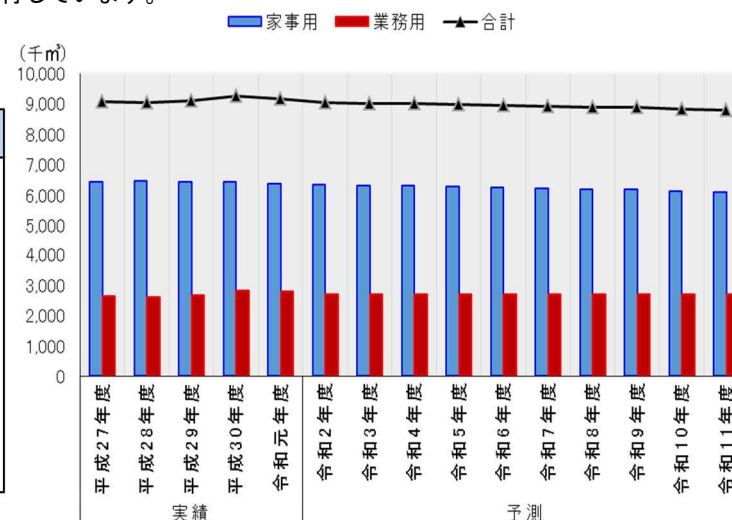
*総務省「経営比較分析表」最新は平成30年度。本編に添付しています。

将来の事業環境

（1）給水人口と給水量（有収水量）

- ◆将来の給水人口は減少傾向にあり、これに伴い、給水量（有収水量）も家事用を中心に減少が見込まれます。

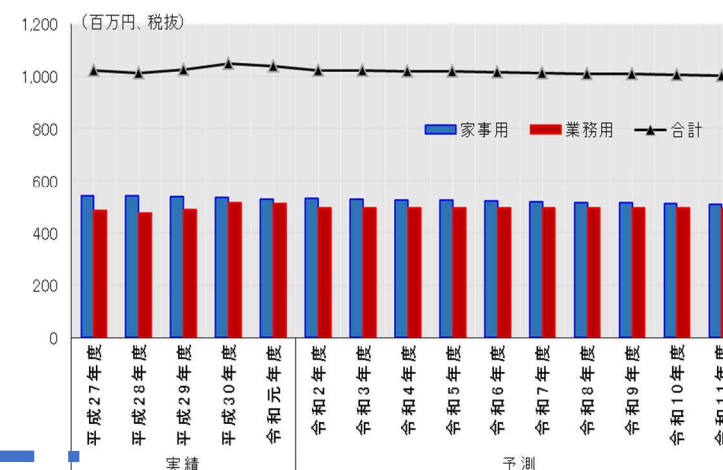
項目	R1	R11	比較
給水人口（人）	73,481	70,423	-3,058
給水量（千m ³ ）	9,156	8,798	-358



（2）料金収入

- ◆給水人口の減少に伴い、料金収入の2分の1を占める家事用料金を中心に減少する見込みです。

項目	R1	R11	比較
料金収入（百万円）	1,039	1,002	-37



投資・財政計画

将来に向け設備投資を推進 10年間で約6億円を上乗せ（実績比）

水道管などの老朽化を防ぐためや災害に備えるため、過去5年の実績平均額に比べ、計画期間中合計で約6億円多い計約48.4億円分の設備投資を実施します。老朽化した水道管の更新のほか、浄水場への災害時バックアップ機能の強化、水道管や水道施設の耐震化など、将来にわたって安定して水道水をお届けできるよう設備投資を積極的に行います。

項目	H30 実績	R11 目標
管路更新率 （類似団体*平均）	1.26% （0.63%）	1.66%
施設利用率* （類似団体*平均）	79.27% （59.46%）	75.00%

*類似団体＝給水人口5万人～10万人

*施設利用率＝1日平均配水量÷1日配水能力

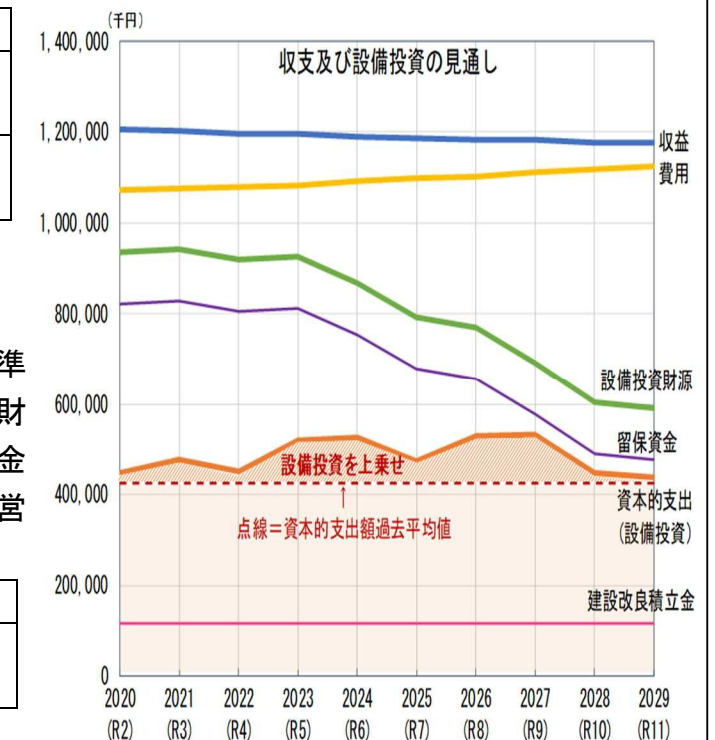
現行料金を維持・無借金経営を継続

市民生活を支える安価な水道料金を現行水準で維持することを目標とします。設備投資の財源には留保資金（余剰金）を活用して、積立金の取崩しや企業債の借入れは行わず、健全経営に努めます。

項目	H30 実績	R11 目標
給水収益に対する企業債残高 （類似団体*平均）	0.00% （314.87%）	0.00%

財源（留保資金＋積立金）残高5.9億円分を確保

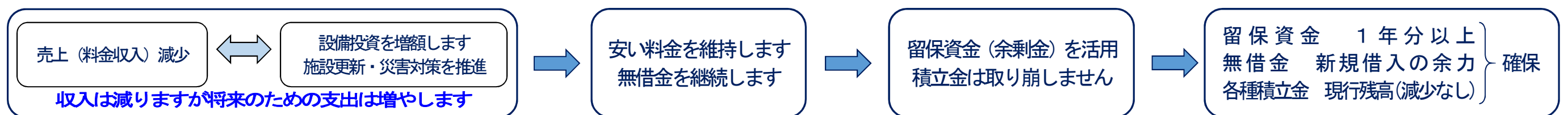
前記のとおり、将来に向けて約6億円の工事費を上積みして設備投資を積極的に行いますが、留保資金の減少は約3.4億円にとどまり、令和11年度末時点で、建設改良積立金約1.1億円と合わせ約5.9億円の財源を確保できる見通しです。



経営戦略の検証・更新

- ◆毎年の決算や経営比較分析表により進捗管理を行ない、経営戦略と大幅な乖離が生じた場合には収支計画を修正します。全体の見直しは5年ごとに定期的に行います。

まとめ



設備更新の推進と財源の確保で将来に向け健全経営を維持